

令和6年度総合計画推進ワークショップ議事録

日 時 令和6年9月14日（土）

午後10時～12時

場 所 いきいきホール

出席者 総合計画推進ワークショップ委員
担当職員、総合政策グループ職員

1 あいさつ

- ・市長より挨拶。

「こんなまちをつくろう」という総合計画を進めていく中で、本日は多様な方々にお集まりいただいているので、皆さんとの話し合いからアイデアをいただいたり、お互いに気付きが得られるといいと思っている。総合計画を推進していく中で、指標だけで判断するのではなく話し合いの中でお互いの気付きが得られるといいと考えている。高浜市では日本福祉大学と協力し、ざっくばらんなカフェという取組が続いている。課題を解決しようとか、何かを生み出そうとしているのではないが、そこで関わった方が市史編さんに加わってくれたりしており、つながるきっかけとなっている。このワークショップでも皆さまに何かのきっかけになるものにしていただけたらと思う。

2 内 容

1) 趣旨説明

- ・資料に基づき説明。

2) 意見交換のポイント

- ・本日は「さん」付けでお互い対等に話をしていきたい。
- ・高浜を「どんなまちにしていきたいか」、「どんなことがしたいのか」、「どんなことができたらいのか」を一緒に考えていくのがこのワークショップの趣旨。皆さんの「こんなことやってみたい」という想いを大事にしたい。
- ・職員が多いが、「こんなことを言ったら怒られるかもしれない」等、組織を気にして発言するのではなく、個人として思うことを発言してもらいたい。乗り越えられると思えるようにする場としたい。
- ・不満や、誰かに対する要望よりも、自分が考えることについて、どうしたら実現できるかという話ができると、一緒にやろうとなる。そういった話ができるといい。
- ・真面目な会議では出てこないアイデアを言ってもらっていい。そう考える人がいるということを知れると、いろんな気付きから次が生まれることがある。
- ・ワークショップが今回上手くいかなければ、次回に活かせばいい。皆さんと一緒につくっていく場としたい。

3) 本日の進め方

- ・資料に基づき説明。

4) 意見交換

<一回目>

テーマ①
・ 「知っていてほしい」情報が、確実に市民に届くようにするためにはどうしたらいいか？ ・ 市内外の方に高浜市のファンになってもらうためにはどうしたらいいか？
・ みんなの笑顔を見ることが趣味（空間をつくるとか、みんなで喜べることに興味がある） ・ 他の人が Happy な姿を見るのが好き 高浜の人は挨拶が返ってくる。 ・ いやしが好き。高浜の彼岸花が綺麗→キャラクターに変えれたらと思う。 ・ 去年より今の自分が好き 高浜の環境が自分をつくってくれた。だから高浜に恩返ししたいと自然に思う。 ・ ベトナム出身で旦那の職場が安城だが高浜は友達がいるので高浜で暮らしている。 ・ 高浜は暮らしやすい 窓口の人がやさしい 通訳さんもいる。 ・ どんな人も自分のまちが好き。暮らしにも不便がなく、知った人が多いので高浜で長く暮らすことになった。今は、地域で出合いや人の笑顔に触れて無意識に高浜に好きになっている。これが高浜全体に広がっていけば、親が楽しんでいると子どもも楽しみまちが好きになっていく。 ・ よそから来た人でも地域の活動に加われば好きになってくれている。無意識のうちにみんな楽しくてやっている。それが発信したいことにつながっていくのでは。 ・ 10 分以内で全てのところに行ける→小ささが一つのうり。小さいからまとまっている。 ・ 小さいことはもっとアピールしていいこと。 ・ 外の世界に出たいタイプだった。知らないことをたくさんみたい。ワクワクするすぐに行動 コンパクトな部分はアピールするといい 失敗をすれば人生を豊かにする ・ 市役所もやりたいと思うことやってみたらいい。 ・ 高浜高校も最近インスタを始めた。 ・ 受信側からするとたくさんの情報がくるので果たして見るのか。 ・ 兵庫県香美町によくいく。地元の人がインスタをあげているのが参考になる。市内の色々な人のアカウント 市ひとつのアカウントで全てのニーズは満たせない ・ 高浜市に住んでいる人のインスタっていい。高浜にこんな人が住んでいるんだというのがインスタで分かるという。 ・ 高浜は人がキーワード。どんな人がまちにいるのかが分かるのはいい。 ・ 部活ごとにインスタがある学校もある インスタは日常をあげるツール こだわらなくていい。試合をライブ配信する高校もある。 ・ インスタをやらないといけないとして始めるのか、やりたいという想いで始めるかによってやる気が変わる。 ・ 学生からすると、インスタはこったものをあげるよりも日常をあげるもの。Tik Tok や YouTube はプロモーションや広告が多い。インスタは報告をあげるだけでもいいと思う。凝らなくていい。 ・ 全員が反応するツールではないのでどういう人が反応するか。市役所の職員がやるのかという点もある。 ・ 市が投稿をしようとするとうやうや伝えていこうかを考えるので時間がかかって大変だと思う。（市が一つあげる間に高校生は5つあげれる） ・ 市長に Be Real やってもらって市長のありのままを発信するのも面白い。 ・ 高浜市が一番推しているのは何か？→瓦。 ・ それならば瓦をベースにしたキャラクターはどうか。

- ・瓦は衰退している感じがある。
- ・海外の人には受けるかもしれない。
- ・高校くるまで高浜市を知らなかった。
- ・ニッチなまち。
- ・地元の子は高浜と言っても伝わらない
- ・同じ三河の人でも分からない
- ・高浜のいいところは楽しいところ 多文化共生センターで子どもと遊べる
- ・人柄の良さをあらわせるキャラクターデザイン化してみたらどうか。
- ・高浜いいまちと普通に言えることが答えだと思う。
- ・何もないまちと言う人もいるが、いいまちと言う人がいることそのものがまちの魅力。
- ・次はキャラクターのデザインが見てみたい。
- ・つくる前にデザインが見たい。

テーマ②

高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮、引きこもり等、様々な課題を抱える人をどのようにして包括的に支援していくか。
--

- ・高浜の e スポーツの取組みは？ → ニンテンドースイッチを使った多世代交流の取組みをしている。
- ・豊明市 ぶよぶよ大会を多世代交流として実施していると聞いたことがある。
- ・学校でPRすることは協力できる。
- ・高校生の間では、スマホゲーム（ソシャゲ）、モンスターとかの話を同級生としたりする。野球ゲームとかやっている話は聞いたりする。マリオカートなどのハード的なゲームよりもスマホゲーム→年代によってアクセスするデバイスが違う。
- ・安城市かどこかで太鼓の達人をされていたと思う。スマホゲームとか苦手な人はそういったゲームの方がやりやすいかもしれない。人によって取組みやすいものが違う。
- ・各世代でブームがある（ミニ四駆、まちのおもちゃ屋さんで大会があった）。まず大会を開いてみる（市がプロモーションして）→チームができ口コミで広がる
・・・チームをつくるためにしかけが必要
- ・やることがない、でかけられない高齢者の方がいる。そういった人に単純な操作の e スポーツならいいと思った。単純なゲームだと若者に受けないかも。
- ・若者も単純なゲームでもいいスコアを出そうと頑張ると思う。
- ・テクニックだと若者に勝てない。年代ごとに分ける。各世代で分けた内容にするといい。→世代内の交流をするのもいい。
- ・ママたちは子供を見守る場があると参加がしやすい。アプリは使い慣れている世代。
- ・ママと e スポーツは聞いたことがない組み合わせだが何かプレイクスルーができれば。
- ・子どもが寝静まった後ならできるかも。
- ・つながり作りではパパと母がいないのでパパと母がほしい。
- ・市が開催したスナックは夜、お酒の力もあって、皆が開放的となって知らない人たちが自然とつながり会話が盛りあがったのはよかった。普段知り合わない方同士で名刺交換したり、つながりができた。
- ・吉浜まち協のフリースペースは自由につながれる場。小学生が宿題したりしている。何もないと集まりにくいので、チョコザップの取組みがおもしろくて、そこに行けばやれることがたくさんあるような、高齢者の方がやりたくなるものが置いてあると集いの場と

しておもしろくなると思う。・・・どうでてきてもらうか。

- ・高浜高校SBP班でバスケの試合を障がいのある方を招待した。そういう場所をつくると集まりやすくなる。
- ・ママたちは孤独に子育てしていることが多い。しゃべれる人がいないとよく仰る。同じようなママと話すのは一歩が踏み出せないような状態。つなげてあげる場があるといい。一時預かりも6カ月からなので祖父母が頼れないと困る人がいる。
- ・中日ドラゴンズファンの集まる場所は。ピカイチという場所是有名。ファンクラブのイベントや、同士で集まると盛り上がる。→高齢の方は昔から中日を応援している人もいる。誰かと一緒に見れると盛り上がると思う。テレビと何かがあるだけで人が集まっていい。
- ・スポーツバーみたいなのが高浜にあるといい。常設でなくても、いきなりつくることもできるのでは。
- ・会社内で部のつながりがないのが課題。他の部署との意見交換の場など、組織内での協力体制の構築が自治体においても重要ではないか。
- ・社内で卓球大会があるがそれぐらい。
- ・コロナ前まではボーリング大会、社員旅行があった。夕飯が一緒だった人たちで話すきっかけになったりした。
- ・何かのタイミング、テーマで集まることが多い。

<二回目>

テーマ①
・ 「知っていてほしい」情報が、確実に市民に届くようにするためにはどうしたらいいか？ ・ 市内外の方に高浜市のファンになってもらうためにはどうしたらいいか？
・ どうしても伝えたい情報はURL だけ一番うえにもってくると情報が埋もれにくい。 ・ ホームページの更新は、更新したことを通知。イベント等の期限のあるものはインスタやXなどの拡散力がある媒体を使う。一番早く伝えたいものは全部の媒体を使う。 ・ ハッシュタグを活用してインスタにアップしてもらったら何かがもらえるような取り組みをすると拡散力が上がると思う。 ・ 参加型のキャンペーンができるといい。ブルーシールでも広告に自分がアイスを食べている写真が出てくるキャンペーンをしていた。 ・ 岡崎市民だが数年前まで誰も来ることはなかった。それが東海オンエアのおかげで突然のようにすごい観光客が増えて、お店も行列ができるようになった。その後に市がうまくそこをタイアップして岡崎の魅力を伝えることでさらに若い人が増えた。発信力がある人とうまくタイアップしてそれをうまく利用してまちづくりにつなげていけるといい。 ・ インフルエンサーをつくる。高浜市公式ユーチューバーを募集するとおもしろいと思った。育ててみんなで応援するのもいい。 ・ クーポンを定期的に発行するとメリットがあって入らざるをえない。店舗に協力してもらえばお店も人が来るので市の予算をかけず無料でクーポンが発行できる。 ・ 名古屋市東区でも地元の商店に足を運んでもらいたいという事で同じことをしているが、アナログでやっている。イーマチカード。 ・ デジタルでやると統計が取れるので次につながる。 ・ マスコットキャラクターの作成について、推し活がまわりでブーム。みんな何かを推している。推している人のところに何かうまくやれることがあるといいなと思った。

- ・仕事上担当の市を持っている。市のキャラクターを鞆につけたり、もらったステッカーを張っていたり、キャラクターのかわいさもあるかもしれないが、自分のゆかりのある市のキャラクターに親近感を持つということ周りでやっている。自分のところのこの子という気持ちを醸成するとみんな愛着をもつ。推し活に近い。だからキャラクターはいいなと思う。
- ・オカザえもんのような人間感はない方がいい。かわいい方がいい。
- ・オカザえもんのようなインパクトがあるものも戦略的にはいい。記憶に残る。
- ・ドアラみたいにかに個性があるといい。
- ・可能性があるのでどう折り合いをつけていくか。
- ・インスタは対象を意識して、対象が拡散してもらえるようにするといい。
- ・市の掲示板を一カ所に設置するのではなく、皆が集まる場所にデジタルで簡易なものをおくとかすると、掲示板を見に行くだけで運動にもなる。
- ・ボートの講習会はこれまで募集人数が少なかったが、LINE で流したせいか定員以上の申込があった。
- ・送るタイミングと世間の関心が上手くあうと反響が大きいと思った。
- ・商工会青年部やまち協などとコラボしてインスタ発信するといい。高浜は実はいろんな楽しいことをしていると知ることができる。それも魅力発信。
- ・インスタで店舗をPR してあげるかわりに店舗からクーポンを提供してもらいLINE で発信すると、インスタとLINE の相互活用ができる。
- ・ママさんは、食べ物系は興味がある。新しいお店だったり。
- ・癒されるスポットなどと一緒に人が集まりそう。
- ・一カ所で終わるよりもルートとか、近くにもこんな場所があるとか情報がくると市外の人でも来やすい。
- ・お得な情報があるといい。

テーマ②

高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮、引きこもり等、様々な課題を抱える人をどのようにして包括的に支援していくか。

- ・ひきこもりの人の希望を如何に叶えるかという立ち位置で見ると全然違うのではないかな。
- ・やりたいなら明日からやったらいいと思う。
- ・障がい者の e スポーツ。最新のストリートファイターでは相手との距離を音声で把握できるようになっている。手が使えない人も顎を使ったりするのをソニーが開発したりしている。企業が取り組んでいるので連携するといい。
- ・高浜で e スポーツのチームがあって、インスタでその発信もできるとなると突出しててやってみたらいいと思う。
- ・刈谷工業高校の生徒で高浜出身の子どもがスマホゲームで全国大会に出たような話も聞いた。高浜市と聞いてびっくりした。
- ・自治体でチームは聞いたことがなくて新しい。
- ・愛知県も推している。アジアパラスポーツもあるので待たなくてすぐやってみたらいい。
- ・動きながら考えるといい。
- ・多文化共生コミュニティセンターは利用者が多い。無料で日本語が勉強できるのがいい。センターに行っている人が他の人を誘ったりする。
- ・それぞれの国のコミュニティがあるので広がる。多文化コミュニティセンターは色んな国

の人に対応できるので、サポートできる人がいるのが大きい。高浜市以外の人の利用も多い。サポートする人に利用者が集まる。

- ・ ことも食堂でも「食べる」以外に目的があると人が集まる。拠点や人が居場所になる。
- ・ 組織をつくるとおおげさになるが、つながるだけでもいい。
- ・ 出発点が可哀そうだからや課題をかかえてそうだからでないほうがいい。
- ・ 引きこもりは、どう出すかという話になるが、悪いことではない。充電中だという考えもあることを聞いた。従来の考え方に囚われない方がいい。
- ・ 忙しくてゲームをする暇がない。
- ・ ゲームをすることでしている人の気持ちも分かる。
- ・ 市役所でやってない人にやってもらうことから始めたらどうか。
- ・ シティマラソンの親子の部で親子大会とかもいい。
- ・ 子どもと一緒にやると子どもの友達に助けられて話のきっかけになり、今風なつながりになる。
- ・ 子どもとのコミュニケーションツールとしてゲームをしたりする。
- ・ テーマが高齢、障がい、子ども、e スポーツにつながりがないと思った。テーマのためにやることなのかが府に落ちない。テーマの対象者でなくてもできる。e スポーツとテーマは分けてこれはこれで考えた方がいいのではないかな。引きこもりの子はやりたくない。高齢者はできないと思う。
- ・ 80歳ぐらいのおばあちゃんゲームが上手くてバズっていた。
- ・ 特殊なケースで一概に高齢者が、ゲームができるわけではない。我々ぐらいが80ぐらいになればできると思うが、今の60代、70代にやれと言ってできるものではない。
- ・ 色々なゲームもある。切り分けるのも一つだが、例えば将棋とか、高齢者と子供と一緒に競えるものがあればそれは素敵なこと。
- ・ 困窮、引きこもりの方も外にでられなくてもゲームの中で対戦ができたりして切磋琢磨できると面白い。中々取っつきにくいのも分かる。
- ・ 全員に当たらないかもしれないがe スポーツがきっかけになるといい。
- ・ マリオカートとかならできるかもしれないと思った。デイサービスでできたら施設対抗やオンラインで高浜高校と対戦など、その場にいかなくてもできるので、有りだと思った。実現できるといい。
- ・ 囲碁、将棋、トランプなど何かやっている。頭を使うのはいい。
- ・ VR を使ってまち探検とか趣味になったりするかもしれない。

3 全体での振り返り

<テーマ①>

職員

- ・ やってくださいという意見をいただいている。自分もやればいいじゃんという考えだったが、年を重ねて、落ち着きはじめていて、今日皆さんの意見を聞いて思い出し、守りに入っていたなと感じた。いろいろなひとの意見を聞いて、昔と今の考えの違いに気付くことができて、モチベーションや気持ちの面で変わることができた。
- ・ 情報発信というテーマであったが、情報発信は正にこれまでにない考え、発想を取り入れていく必要があるテーマだと思うので、今回のテーマもメンバーにも合っていたと思った。

推進サポーター

- ・ 上手く話せるか緊張していた。アイスブレイクの機会をもらえたり、否定的でなく肯定的に話

を進めてくれる方が沢山いたり、自分の意見を話すことができた。後期生徒会選挙で会長を目指している。会長になれば、今日沢山の方と話して気付けたことや学びを活かした学校づくりができるようになりたい。

<テーマ②>

職員

- 引きこもりの人はそれが課題だと思っているわけではない充電期間で何かしているかもしれないという意見があり気付きになった。
- 「他のところがやるよりも前にやればいいじゃん」という意見がどちらのグループからも出て、背中を押してもらっている気がした。ゲームを通じて普段つながらない人たちがつながれるのはとてもいいことだと思うので、進めていきたいと思った。体験会の開催などを検討したいと思った。

推進サポーター

- 高浜市は人が魅力的だと改めて感じた。是非やってみてもらいたい。動きながら考えてもらえたらいいと思った。
- 高浜市の人の優しさは改めて感じた。今日も否定的でなく肯定的な話しやすい雰囲気を作ってくれた。
- 日常生活で気付けないこと、関わらないことで難しいテーマだったが、話してみると意外と自分も関係があることを感じた。自分たちだけでなく、学校全体、高浜全体、三河地区に話を広げていけるぐらい、まずは先生、全校生徒にも報告することをしていきたいと感じる有意義な時間だった。

<講評>

コーディネーター

- 楽しい一時を過ごせた。総合計画は、しばしば作って終わり、忘れ去られることがある。このような場を設定して、総合計画を踏まえつつやりたいことを共有する場、こういったものが非常に重要だと感じた。
- 総合計画の内容は行政だけでできることもあるが、市民や各種団体の方の参加がないと達成できないこともある。学校づくりに生かすという話もあったが、総合計画に沿ったまちづくりにとって重要だと感じた。
- 色々なことをやりたいという話があったが、ポイントになるのが、行政もやるし、皆さんもやる、オール高浜でアクションを起こすこと。関わり方は様々で、意見をする方法もあれば実践する方法もあるが、いずれにしてもそういった姿勢が次につながる。
- トライ＆エラーの時代で失敗はあっていいと思う。今までは行政が失敗するのはタブーでやらかすと叩かれてということがあったかもしれないが、先行き不透明でそういう時代でもない。市民と取り組んで時には上手くいかなくてもその反省を活かして次に向けて前進していくことが今の時代のやり方。
- これで終わりでなく次につなげていくような機会となればと思う。

コーディネーター

- 色々なことを発信するにしても、ものだけでなく、人をどう発信するか。それは発信していくということだけが問題だけでなく、そこから色んな人とつながったり、或いはいろんな人たちと一緒にやるという機会が生まれることでみんながハッピーになれるということかと思う。

- 今まで出会ったことがないような人と出会ったり、多様な人たちと関係したりすることで、想像しなかったことが実はもっと簡単にできるかもしれない、もっと身近なところにあるのだというところがこれから大事だと思う。
- グループの中でも「e スポーツを好きな人がいるから一緒にやろう」と言う人もいれば、分からないという意見もあった。まず市役所職員でやったことがない人が体験してみたらどうかという意見も出た。計画立ててやるよりも、これは何だろう、やってみようよというレベルから始めていけばいいと思う。
- いろんなことを話すことでお互いのことを知れるだけでなく、可能性も広がる。もっとこういう場をつくっていけるといい。高浜に係る人は沢山いて、そういう積み重ねが大切になる。それがこれからのポテンシャルを開くと思った。
- こんな人がいるんだ、こんな人と出会うとこんなことができそうだと、瓦、とりめし等のモノじゃない取組みをこれからやっていくことが大事。やれるところからやっていけるといいと改めて感じた。

市長

- 参加ありがとうございました。
- 本日は総合計画の“推進”ワークショップという場でしたが、皆さんがすでに総合計画の中に入っているなと感じた。
- 高浜市には幸せづくり計画という地域福祉計画があり、一人でできること、十人でできること、みんなでできることのような仕立てになっている。
- 今日は一人でできること、みんなでできることという話をもうしていただいた気がして、推進が始まっていることを感じた。

4 その他

- アンケートにご協力ください。